

第3回 東京都商品等安全対策協議会 議事要旨

1. 日 時：令和8年6月26日（金） 午後1時30分から午後2時37分まで

2. 場 所：東京都庁第一本庁舎 42 階 特別会議室 B

3. 出席者：仲綾子 委員（会長）

北村光司 委員（会長代理）

坂口達郎 委員代理

仲野禎孝 委員

野田夜賜重 委員

米山眞梨子 委員

河合恒 特別委員

小松真一 特別委員

多々良和孝 特別委員

中谷竜 特別委員

村上高久 特別委員

4. 次第

「エスカレーター利用者のための安全対策」についての検討

その他

5. 主な発言

<資料1（運転速度に関する検証実験（案））に関する意見、質疑応答>

○ 救急搬送者数に違いがあるため、70代の被験者については、「70～74歳」と「75～79歳」の人数を均等にした方がよいのではないか。

→ 人数を均等にできるか検討するが、条件に合致する被験者の確保が難しい場合もあると考えている。

○ ふらつき等を招く薬の服薬や杖の使用など、被験者が日常的にふらつきを生じる要因は考慮しないのか。

→ 薬の服薬状況や杖の使用状況などは、事前に把握したいと考えている。

○ 身体機能が高い70代が被験者として多く参加した場合、実験結果に偏りが生じる可能性がある。このため、外出頻度などの基準を設けて被験者を募集した方がよいのではないか。一般的に、過去1年間に転倒経験があると、転倒リスクが高い人と評価される。このため、被験者へのアンケートにおいて、エスカレーターに限らず転倒経験を尋ねてはどうか。

- 今回の実験では、「被験者の体感」や「観測員による観察」による評価で、結果に違いが現れるか分からない。予備実験を行ってみて、違いが出ないようなら、センサーなどを用いた定量的な計測を検討した方が良いと思う。
- 被験者全員へのセンサー装着は、時間や費用の面で課題がある。何らかの定量的な計測ができればよいと考えるが、全体のバランスを考慮し検討したい。
- 観察者が、被験者のふらつき等を見落とす可能性がある。また、「観察結果」と「被験者の体感」が異なる場合の解釈も課題となる。その意味で、センサーは客観的な結果が得られるためよいと思うが、期間と予算の制約も理解できる。

- 安全を考慮して、70 代の被験者は、飲酒状態体験ゴーグルを着用した実験を対象外としている点は重要であるが、70 代以外でも、ゴーグル着用の実験に不安を感じる被験者は少なくないと思う。
- 事前確認で問題がなくても、本人の申し出によりその実験条件での利用を省略できる。

- 被験者として体力のある人が多く集まると、一般の利用者とは異なる結果になるかもしれない。不安を感じやすい人も含めた方がよいと思うが、安全性や様々なバランスを考えると、難しいと思った。

- 集まった被験者の特性を把握し、その内容を文章で適切に記載できればよいと思う。体力がある人が被験者として集まった実験は不適切ではなく、そのような被験者を含む結果であることをきちんと認識できればよいと考える。

- 履物による危険やふらつきが生じないようにするため、一定の制限を設けた方がよいと思う。
- 履物や衣類は実験に適したものとし、巻き込みの恐れがあるものや不適切なものを避けるよう、参加者に事前に周知する予定である。

- 先行研究で分速 20m と 30m を比較した際に、分速 30m が速く感じるとの実験結果が出ているため、本実験においても、同様の運転速度の条件では差が出ると思われる。乗降前後の歩行に変化が生じるのではないかと思うので、歩行時間を計測してはどうか。エスカレーターの運転速度に自分の認識を合わせられない高齢の被験者には、降りた時につんのめるような歩行などが、見られるのではないかと思う。

<資料2（低速運転事例等に関するアンケート調査（案））に関する意見、質疑応答>

○ 一社で複数の施設を持っている場合、どの施設を回答対象とするかは、事業者の判断となるか。

→ 回答対象の施設は、各事業者の判断とする。

○ 低速運転を実施していない事業者に対して、「過去に低速運転を実施したか」及び「実施した場合は、なぜやめたか」を尋ねる設問を追加してはどうか。

→ 設問の追加を検討する。

○ アンケート結果を示す際に、「旅客施設」と「商業施設」は区別する **の** か。

商業施設の中でも、百貨店とショッピングモール等では客層が異なるため、区別した方がよいと思う。

→ 回答数にもよるが、調査結果については、回答内容の特徴が分かるように結果を整理したいと考えている。

○ アンケート内容は比較的答えやすいと感じたが、速度変更の可否などの確認にはある程度時間を要するため、回答期間は1か月程度確保すると回答しやすいと思う。